

JAAF
SHIGA

滋賀陸協広報

一般財団法人 滋賀陸上競技協会
〒520-0037 大津市御陵町 4-1 皇子山陸上競技場内 2-1 室
Tel/fax077-527-3925 <http://srkshiga.com>

平成30年4月10日発行

会長あいさつ

協会員のみなさん、大会運営を支えていただいている役員のみなさん、また各種大会へ参加いただいている選手のみなさん、平素は当協会が主催、主管する事業に格別のご協力、ご支援をいただきありがとうございます。

昨年度もびわ湖毎日マラソンをはじめ、県選手権大会、小学校、中学校、高等学校の陸上競技大会など年内各地で事業を実施しました。2020年開催予定の東京オリンピックもあと2年となりました。

また、2024年には、滋賀国体も開催されます。施設も急ピッチで整備が進められている一方、選手強化にも力を入れていかねばなりません。昨年は本県彦根市出身の桐生祥秀選手が男子100m、9秒98の記録を出し、日本人悲願の9秒台を打ち立ててくれました。これは滋賀県だけでなく日本のビックニュースとなりました。また、8月には、男子中学4×100で米原市立双葉中学校チームが日本新記録(42“40)を出してくれました。この平成30年(2018年)は、当協会として昨年度より組織の充実もおこない、選手強化に向け、若い選手の育成など新しい改革を進めようとしています。

今後とも、2018年度の滋賀県選手の活躍に期待を込め、滋賀陸上競技協会の活動により一層のご支援を賜りますようお願いいたします。



会長 奥村 展三

強化委員会

第72回国民体育大会「2017 愛顔つなぐえひめ国体」が昨年10月6日から10日まで愛媛総合運動公園陸上競技場(ニンジニアスタジアム)において開催されました。本県の精鋭29名が今大会に挑み、天皇杯44位、皇后杯34位という成績となりました。

大会前の目標を天皇杯30位と位置づけ取り組んでまいりましたが、個々の成績では、成年女子(棒高跳)我孫子智美選手の2位、少年共通(円盤投)飛川龍雅選手の4位と、入賞2種目にとどまりました。また、桐生選手を擁する男子リレーにおいて39“87の滋賀県記録を更新するものの、準決勝9位で敗退するなど、11位までに8種目というあと一步のところで入賞を逃すという結果となりました。

今年の布陣は、候補記録を27種目で突破するという、昨年度に引き続き期待できる状況でしたが、得点を伸ばしきれなかったこと、惜しくも入賞を逃す種目が多数あったことについて、反省するとともに申し訳なく思っています。しかし、いっぽうで滋賀県記録が1種目、大会中のPBが3種目出たことを励みにし、次年度以降の強化につなげていきたいと思えます。

2024年滋賀国体まで6年となり、本県強化対策の充実期となっています。4年前から普及委員会との連携により、ターゲットエイジである小学生への指導や冬季事業にも力を入れています。昨年11月には小学生を対象とした第2回滋賀リクをはじめ、滋賀レイキッズ(県指定選抜強化プログラム)への陸上教室を開催し、小学生の未

知る可能性を引き延ばしていくこととともに、小体連・中体連・高体連・一般選手が一丸となり、各強化事業を推進する中で、滋賀県が一体となり強化にあたりたいと考えています。

次年度は福井県にて「福井しあわせ元気国体」が開催されます。滋賀県出身の桐生祥秀選手が樹立した、日本人初となる9秒台を出したこの場所で、本協会が大きく躍進できるよう、様々な強化事業に取り組んでいきたいと考えています。

さいごに、県民の皆様をはじめ、滋賀県スポーツ局、滋賀県競技力向上対策本部と多くの皆様方に、ご理解・ご協力をいただき深く感謝しております。来年度以降も小体連・中体連・高体連をはじめ、陸上競技に関わって下さる全ての組織が連携を深め、チーム滋賀が大きく飛躍できますよう、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



えひめ国体



冬季強化練習会

普及委員会

2017年度（平成29年度）は、17名の普及委員が協力し、多くの事業に取り組みました。

2024年の滋賀国体に向け、競技人口の拡大と強化の両面を目指し活動しています。

既に33回を数える全国小学生陸上競技交流大会滋賀県大会の運営ならびに全国大会参加、各地で実施してきた陸上教室から生まれた秋季小学生陸上記録会の運営、滋賀陸上チャレンジフェスタ参加、毎日マラソンのサブイベントである小学生1000m記録会運営等を活動の核とし、子どもたちの活躍の場をつくり、タレントを発掘、育成していきたいと考えております。

また、近年は中体連との連携も密にし、指導者の交流だけでなく、中体連の記録会に小学生も参加させていただくなど、身近な先輩に近づく場も作っています。

主な活動

- ・リレーカーニバル参加
- ・中体連記録会参加
- ・県民体育大会小学生記録会運営
- ・全国小学生陸上競技交流大会滋賀県大会運営
- ・全国小学生陸上競技交流大会参加
- ・秋季小学生陸上記録会運営
- ・滋賀陸上チャレンジフェスタ参加
- ・県駅伝フェスティバル参加
- ・5府県対抗小学生陸上記録会参加
- ・全国クロスカントリー研修大会参加
- ・日本ジュニア室内陸上参加
- ・指導者研修会・交流会開催
- ・びわ湖毎日マラソン 小学生1000m記録会運営



第2回滋賀陸上チャレンジフェスタ

記録委員会

2017年もたくさんの新記録が誕生しました。2024年の国民体育大会の地元開催を控え、より一層の競技力向上が求められています。強化委員会を中心に様々な事業が展開されている中、2018年シーズンも多くの記録が誕生することを期待したいと思います。

2017年滋賀県新記録一覧

種目	記録(旧)	氏名	所属	競技日	大会名	場所
男 110mH	14'11(+0.8) (14'14)	加藤 慶彦	立命館 AC	5/21	関西学生	長居
男 5000mW	20'19'01 (20'27'46)	中川 岳士	北海道大	3/26	国士館大 競歩記録会	国士館大
男 4×100mR	40'90 (41'09)	①橋 海 ②井口 七海 ③宮口 龍二 ④中村 恭輔	近江高	7/30	全国高校	天童
男 4×100mR (滋賀選抜)	39'87 (39'94)	①須戸 遼 ②小谷 優介 ③中井 準登 ④桐生 祥秀	国体 滋賀選抜	10/9	国体	愛媛
男 走幅跳	7m80 (7m76)	遠藤 泰司	立命館大	5/10	関西学生	ヤンマーフィールド*
男 砲丸投 (7.260k)	15m83 (15m17)	杉本 仁	中京大	7/1	西日本学生	東広島
男 ハンマー投 (7.260k)	65m83 (63m71)	奥村 匡由	流通経済大	9/8	日本学生	福井
女 4×100mR	47'15 (47'50)	①林 沙優 ②下村 日向子 ③黄瀬 蒼 ④水谷 陽子	近江兄弟社高	6/15	近畿IH	西京極
女 400mH	59'53 (59'81)	小崎 遥	草津東高	7/9	滋賀県選手権	皇子山
女 5000mW	22'59'37 (23'20'73)	園田 世玲奈	中京大	4/8	平成国際大 競歩記録会	鴻巣
女 10000mW	47'09'12 (47'59'10)	園田 世玲奈	中京大	11/26	ひろしま 県央競歩	東広島
女 円盤投	49m05 (48m00)	清水 麻衣	びわこ 学院大	9/5	日本学生	福井
女 ハンマー投	58m73 (57m30)	佐伯 珠実	滋賀陸協	5/20	関西実業団	長居

地域委員会

本委員会は、滋賀陸協に登録している会員の登録状況を2002年と2015年の2カ年について比較を行った。その結果は、下記に示すとおりである。

- 登録者数は1,008名から883名に約120名減少。
- 地域陸協主体となる団体登録者数は、348名から270名に約80名減少。

- 企業クラブは、時代の流れから大幅に減少（120名減/6企業減）。
- 実質的に個人レベルの登録者が約200名増加。

以上から、会員減少により組織的な弱体化が懸念され、個人登録者の増加により統率力に陰りが生じるとともに当該地域陸協はその登録者の把握が困難となった。

滋賀陸協会員登録状況の比較（2002年と2015年）				
(一財)滋賀陸上競技協会				
	①地域陸協 (AC)	②企業クラブ	③クラブチーム	④個人登録
2002年 1006名	348名/13郡市	184名/13企業	474名/25チーム	無
	(約80名減)	(120名減) (6企業減)		
2015年 883名	270名/13郡市	64名/7企業	464名/31チーム 1チーム10名未満の チームが16チームで 109名	85名 ③と④から、実質的に約200名が個人 レベルの登録者となっている。

このため、各地域陸協の組織力を少しでも向上させることにより、滋賀陸協として盤石な体制が築きあげられると考える。そこで、滋賀陸協と各地域陸協がそれぞれの役割を担った実施すべき又は検討すべき内容（登録に関する事柄）について以下に提案する。

- 滋賀陸協登録時に地域陸協の所属を明確にすると地域陸協の登録者が把握できる。
- 地域陸協の代表者に当該地域陸協の所属する全ての会員情報を提供する。
 - ☆ 各地域陸協の滋賀陸協登録者（個人情報の取扱いには十分注意が必要であることは言うまでもない。）を地域陸協代表者に提供する。
- 地域陸協の窓口（事務局）を紹介する。
 - ☆ 年鑑およびHPなどを通じて、滋賀陸協が正式に地域陸協の窓口を紹介する。
- 地域陸協に所属するクラブチームの代表者を把握し、コミュニケーションを図る。
 - ☆ 地域陸協が把握できたクラブチームに対し、地域陸協が有する情報を提供するとともにその活動への参加を促す。
- 登録に関して事務的な手続きの上で地域陸協の負担増となる場合には、その負担を少しでも軽減するために滋賀陸協に支援を要望する。

審判委員会

審判委員会では、競技運営に必要な公認審判員について、担当しています。

- ・ 審判員の養成（審判講習会の実施）
- ・ 競技役員への委嘱（意向調査を受けて）
- ・ 資格の確認（登録の確認）
- ・ 資格審査（S級、A級審判の推薦）
- ・ 功労者の推薦 等が主な仕事です。

競技会の権威と記録の信頼性を確保するために、公認競技会の競技役員は補助役員を除きすべて公認審判員で構成しなければなりません。

- ・ 公認審判員となる条件

- ①陸上競技規則を熟知すること。
 - ②1つの審判部署に関して深い経験をもち、かつ優れた技術または能力を有していること。
 - ③審判員としての態度が立派で、かつ人間関係が円満であること。
 - ④審判員として一定の経験年数に達していること（S級、A級が対象）。
 - ⑤現在審判員としての熱意を有し、委嘱があれば可能な限り出席していること。
- ・公認審判員の資格取得の規準
加盟団体の登録会員で、18歳に達した者

平成36年に滋賀県で国体が開催されます。
審判員数の確保と、審判技術の向上を図っていきます。

日本陸上競技連盟公認審判員資格申請書については、滋賀陸協ホームページの各委員会の掲示板《審判委員会》に様式を掲載しています。

高体連

滋賀県高体連陸上競技専門部としては、9月には近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会を皇子山陸上競技場で開催し、12月には日本陸連U19強化研修合宿近畿東海地区合宿をびわ湖大津プリンスホテルを拠点に、皇子山陸上競技場、立命館大学、草津東高校を会場に行いました。近畿地区のホストとしてその役割を果たし、2018年の6月には全国インターハイの近畿地区予選会を皇子山陸上競技場で開催することから、日々審判技術の向上や、選手が記録を出しやすい競技会運営に努めております。



近畿東海合宿

また、2019年2月には近畿地区の強化研修会を開催することになっています。大きな行事が続く中で、滋賀県の存在感を出していけるように努めて参ります。

今年は多くの全国大会で入賞を果たしました。8月に山形県NDソフトスタジアムで行われた全国インターハイにて、滋賀学園高校の飛川龍雅選手が円盤投で6位に、草津東高校の小崎遙選手が400mで4位に入賞しました。

8月に大阪府ヤンマーフィールドで行われた全国高校陸上競技選抜大会では、3000mWで滋賀学園高校の森田悠揮選手が4位に入賞しました。

10月に愛媛県ニンジニアスタジアムで行われた国民体育大会では、滋賀学園高校の飛川龍雅選手が少年共通円盤投で4位に入賞しました。

10月に愛知県パロマ瑞穂スタジアムで行われたU20日本選手権では、滋賀学園高校の飛川龍雅選手が円盤投で6位に、草津東高校の緒方優佳選手がやり投で6位に、同時開催されたU18日本選手権では草津東高校の中村涼汰選手が砲丸投で7位に、近江高校の木村玲奈選手がやり投で8位に、彦根翔西館高校の垣立麻帆選手が円盤投で8位に入賞しました。

10月に神奈川県日産スタジアムで行われた、ジュニアオリンピック同時開催の日本選手権リレーにおいて、2020年東京オリンピック特別対策種目として、U18男女混合4×400mRが開催され、滋賀県代表チームは、1組2着ながらも、惜しくも決勝に進めませんでした。今後の普及・強化に向けて良い経験となりました。2024年の滋賀国体に向けて、さらなる成績向上を目指していきます。

中体連

平成29年度の全国大会では、双葉中学校の男子リレーチームが日本中学新記録となる42"40で優勝、高穂中学校の藤原孝輝選手が5位入賞、栗津中学校女子リレーチームが8位入賞と全国の舞台上で素晴らしい結果となりました。

中体連では、選手強化事業として「冬季・春季合宿の開催」「駅伝強化として長距離練習会や合宿の開催」など、継続して行ってきた成果が今年の結果にもつながっていると考えている。今年度においては、冬合宿で滋賀陸協の強化コーチより、

2024滋賀国体に向けて、中学生トップ選手へのご指導をいただくとともに高校との連携を図ることができ。また、春合宿においては、滋賀陸協強化委員をされている、びわこ成蹊スポーツ大学総監督の石井田先生をお招きして講義をいただくなど、各年度に応じて様々な強化策を講じている。そして、普及部では小中連携を中心に、合宿や練習会に小学生を呼んで一緒に練習を行い、小学生の意識向上にもつながっている。

平成30年度においてはこれらの事業を継続し、滋賀県から「日本一」の選手育成を目標とし、2024滋賀国体を見据えた選手強化を行っていく。しかし、現状では経済的に選手それぞれの家庭に負担していただいていることも多い現状から、滋賀県として強化費等の部分で少しでも家庭の負担を軽減させていくことが必要であると考えます。



マスターズ

生涯スポーツの精神の志を持ち、健康に留意し、元気にいつまでも陸上がつづけられることを祈念し活動をしています。29年度の会員数は234名。

29年度の主な事業

- 5月4日・・・ダッシュ王選手権(甲賀市)
- 5月28日・・・平成29年度スポレク祭(甲賀市)
- 10月1日・・・第23回滋賀マスターズ選手権(甲賀市)
- 10月15日・・・健康体力測定(野洲川体育館)
- 11月26日・・・第30回全日本マスターズ駅伝競走大会(希望ヶ丘運動公園)

30年度の主な事業

- 5月4日・・・ダッシュ王選手権(甲賀市)
- 5月27日・・・平成30年度スポレク祭(甲賀市)
- 6月24日・・・第34回近畿マスターズ選手権(甲賀市)
- 8月26日・・・第24回滋賀マスターズ選手権(甲賀市)
- 3月21日・・・第25回近畿マスターズ駅伝競走(希望ヶ丘)



「競技記録志向」「健康管理」「仲間作りの機会」と目標は様々ですが、一人でも多くの仲間が増えることを願い、活動を続けていきたいと思っております。